

すわみつえ通信

No.287 2023年10月9日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届けたい声がある 声をかたちに

市民の声が届く 福祉・教育優先の街づくり、命・暮らし・平和守る市政に

文教福祉常任委員会 市内・近隣市視察を行う

文教福祉常任委員6名と事務局1名で10月4日(水)に熊谷市と鴻巣市の福祉施設と小学校を訪問し視察しました。学んだことを今後の議会活動に活かしていきます。

① 福祉医療センター 太陽の園(熊谷市)

重症心身障害児(者)が入所できる施設です。短期入所(ショートステイ、通園(デイサービス))を提供しており、鴻巣市の方も利用されています。入所施設では、70名の入所者に70名の職員が配置され、その内の半数が看護師で半数が福祉職とのことです。医師の確保が大変だということでした。

県から委託された医療的ケア児の支援センターは、鴻巣市の方も利用されています。

常に、人口呼吸器による呼吸管理や痰の吸引などの医療行為が必要な児童とその家族に対する支援を行う機関です。新たに利用を待つ方も多くいらっしゃるようです。国・地方公共団体が予算を確保し、社会資源を増やす必要があると感じました。

② フリースクール Paradero(パラデロ)

不登校の児童生徒の居場所として、心の充電・自信につながる体験活動などを行っています。

③ 下忍小学校

吹上小学校から通学区域が変更となった北新宿地域の児童が通学しています。2023年度は54名の児童が2台のスクールバスで通学しており、2024年度からは104名となる見込みです。スクールバス駐車場を確認しました。

視察日は市民の日記念献立の給食でした。児童と同じものを委員もいただきました。1食268円。物価高騰のおり、工夫が感じられました。



④ レスパイトゆう

障害児(者)とその家族の一時預かり、派遣による生活サポートや移動支援を主に行っているNPO法人です。コロナ禍で利用が減少し、なかなか増えない悩みを伺いました。居心地のよい事業所でお話しが伺えました。

⑤ 吹上小学校

言葉や聞こえに不安がある子どもを専門職が指導をする「ことばの教室」があります。鴻巣市では鴻巣東小学校に続き2校目です。通常の授業を受けながら、決まった曜日で90分間指導を受けます。

埼玉県議会で「子どもを置いて出ても禁止?」

自民党議員団が「埼玉県虐待禁止条例の一部を改正する条例(案)」を提出

保護者のいない住居や自家用車の車内等に児童が放置されて死亡する等、児童の放置による深刻な事案が全国的に相次いでいることが、提出の理由です。「小学3年生以下の児童を留守番させる」「子どもだけで公園で遊ばせる」などが禁止条項です。これでは、ワンオペで育てている保護者をさらに追い詰めてしまわないか危惧されます。委員会では公明党が賛成し可決しています。今後、本会議で採決となります。日本共産党県議団は反対を表明しています。

【俳句コーナー】

亡き人よ星になるともならずとも

瑠璃子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

自分が不利になったら途中でルールを変え、相手が異議を唱えたら「あなたには抗議する資格がない」と突っぱねる。沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設をめぐる、政府がとってきた手法です▼玉城デニー知事が、防衛省が提出した辺野古の埋め立て申請を不承認にしたのは、法で定められた要件を満たしていないという、まっとうな理由です。そうであるなら、要件を満たすために手直しすれば済む話です▼ところが政府は、一般市民の権利救済を目的とした「行政不服審査法」を悪用し、国(防衛省)を「救済」するため、国(国土交通相)がデニー知事の不承認処分を執行停止にしていきました。▼県が提訴すると、最高裁は「県には原告としての資格がない」と門前払いに。そして政府は5日、最高裁



米軍キャンプ・シュワブのゲート前での座り込み。=6月15日、沖縄県名護市辺野古

判決に従わないのは「違法」だとして県を提訴しました。国が県の権限を奪う「代執行」に踏み切るためです▼国が平気でルールを変え、司法もそれを追認する。この国は本当に法治国家なのか。そんな疑問さえ覚えてしまいます。こんなやり方がまかり通ってしまえば、地方自治は滅んでしまいます▼国は、辺野古埋め立てを承認しなければ普天間基地の「危険性」が放置され、「公益を害する」と主張しています。しかし、新基地は完成まで最短でも12年以上。世界的にも貴重な生態系を破壊し、普天間基地の「危険性除去」どころか、逆に放置する。「代執行」訴訟の弁論は、「公益」論のでたらめさを徹底的に審理する場となるべきです。

スクープ 辺野古新基地 ウソで固める軟弱地盤

設計変更申請をめぐる新たな重大疑惑がしんぶん赤旗編集部取材で浮上しました。防衛省がウソの説明でごまかしていたのは耐震設計の前提となる「レベル1地震動」のデータ。同省は沖縄県などに、東日本大震災(2011年)などを経て大幅改訂された新港湾基準(2018年)に準拠して作ったと説明。しかし実際に使っていたのは、旧港湾基準(2007年)で作られたものでした。観測地点での地震の揺れ方の大きさを示す最大加速度は、新港湾基準に基づけば現在の数値より大きくなる可能性が出てきます。

知事と県民のたたかいで当初計画から建設が大幅に遅れていた新基地。耐震設計をやり直せばさらに遅れることから防衛省は、旧港湾基準のデータのまま設計変更を申請したと思われます。新基地建設の問題に詳しい新垣勉弁護士は「公有水面埋立法の趣旨に反する」と指摘。同法は、埋め立て承認の要件として工事などの安全性の確保を求めています。「安全性確保は、設計変更申請の承認でも重要だ」(新垣氏) <しんぶん赤旗 日曜版 10月1日号>



新基地建設が強行されている辺野古・大浦湾=2021年12月、沖縄県名護市

のリニューアル工事を終えた通天閣と、満月を写真に収めようと多くの人がカメラを向けていました。
▽: 中村久子さん(73)は「今年は暑いが、月を見て少しだけ涼んだ」と話しました。



「中秋の名月」の9月29日、通天閣のある大阪市浪速区でも大きな満月が見られました。(写真・HDR撮影)
▽: 同月22日に全面的に発光ダイオード(LED)化するなど